



プログラミング コンテスト表彰式

11月23日、『IMARRIKids プログラミングコンテスト2022』の表彰式が、PORTO3316 IMARRI でありました。

このコンテストは、小学生向けプログラミング教育事業を行っている株式会社CA Tech Kids（東京都）の協力により、プログラミングに関する学習意欲やスキルの向上を図ることを目的に、開催しているものです。

受賞者は、次のとおりです。

▽第1位

松尾 優人さん（松浦小5年）

『地球温暖化シューティングゲーム』

▽第2位

鍵 虎牙さん（黒川小6年）

『海の宝石キャッチゲーム』

▽特別賞

井手 成栄さん（立花小4年）

『ハンターからにげる!!』



↑前列左から受賞者の鍵さん、松尾さん、井手さん

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 262

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

ママチャリ

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23-3186

ある研修会でのことです。『ジェンダー（文化的・社会的に形成される性差）』について、話し合うことになりました。

参加者それぞれが、持ち寄った課題を出し合うとき、メンバーの一人が『ママチャリ』について、話し始めました。

ママチャリと聞いて、多くの方がイメージするのは、前輪の上にかごが付いているアップ型ハンドルの一般名称『シティサイクル』という自転車です。あるメーカーの販売サイトでは、女性が乗っても安定走行ができ、主に買い物に利用するための自転車ですと、紹介しています。幼児を1〜2人乗せることができるものもあります。

一方、数は少ないものの『パチャリ』と呼ばれる自転車も売られています。販売サイトによると、こちらは趣味に、仕事に、家族と過ごすひとときに、使いやすいと遊び心を

両立し、お父さんが格好よく乗れる、子どもが乗りたくなくデザインと、紹介されています。

研修会の中で、そのメンバーは、「ママチャリというネーミングは、あたかも、家事や育児は母親の仕事という固定的なイメージを与えてしまっているのではないだろうか。皆さん、どう思いますか？」と問いかけました。これをきっかけに、さまざまな意見が交わされて、内容の濃い研修となりました。

私自身も、自転車の前と後ろに子どもを乗せて、ママが運転している『ママチャリ』を見たことがあります。その前かごには、膨らんだ買い物袋が入っていました。

ママチャリに、買い物袋を積み、小さな子どもを乗せて走るパパ。あまり見かけませんが、こんな光景もいろいろだと思えます。

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝⑨

●問合先 生涯学習課歴史民俗資料館 ☎22-7107

色絵更紗文皿（鍋島焼）

今月は、色絵更紗文皿を紹介いたします。1660〜1680年代に作られた鍋島焼です。

初期鍋島の作品で、器形は内ぐりが浅く、高台が高い、直径15・5寸の5寸皿です。

器面全体に、染付の七宝文を格子状に施し、中に赤・黄・緑色の上絵で菊花文を配しています。初期鍋島の上絵に特徴的な、やや暗い赤の色調が印象的な更紗文です。更紗文は、初期鍋島に多く見られる模様です。

草花などのパターン化した文様を規則的に配した図柄を更紗文と言います。これは、絹の布などに染色した更紗に似ているからです。佐賀藩には、鍋島更紗という伝統工芸品がありますが、鍋島焼と鍋島更紗との関わりは、明らかになつていません。

裏文様には、濃淡の染付を使い分けて描かれた、唐花唐草文がめぐり、高台には雷文をめぐらせています。

形や裏文様など、典型的な鍋島様式が確立する前に、試行錯誤が重ねられたことがよくわかります。小品ながら、華やかな名品です。

●伊万里・鍋島ギャラリー
※入館料は無料です。
(☎22-2267)



→色絵更紗文皿